

建築材料およびコンクリートの教育に関する長年の貢献

終身正会員 笠井 芳夫 君

笠井芳夫君は1956年3月日本大学大学院建設工学専攻修士課程を修了し、同大学に勤務し、生産工学部教授として定年退職するまで、40年以上の長きにわたり、建築材料学、建築実験を担当し、多数の学生の教育にたずさわってきた。この間、コンクリートに関する多数の著書を出版し、鉄筋コンクリート構造物の解体工法および再生コンクリートに関する先導的研究活動を行った。これらの活動を通じて学生や建設技術者の教育ならびに社会に大いに貢献した。

同君が執筆・編集した主要な著書は極めて多く、講義用の建築材料、建築実験のほかに、コンクリートの試験方法、コンクリートの非破壊試験方法など他分野にわたっている。このうち「材料科学概説」は「建築材料学」に広い視野を与えた。また、「コンクリート総覧」は、建築系および土木系のコンクリート技術者90名が執筆者となり、750頁の大部なものである。このほか「セメント・コンクリートの混和材料」「軽量コンクリート」がある。同君が早くから取り組んだ解体工法と再生コンクリートについては、「解体工法と積算」がある。1993年から(社)全国解体工事業団体連合会に協力し、「解体工事施工技士試験委員会」の委員長を務めている。また、同君は本会のコンクリート関係の委員会において、委員長、幹事として各種規準14件の制定に尽力した。

同君は「工学はものをつくるための学問である」という信念にもとづき、学生用教材やコンクリートの実務書を多数執筆してきた。これらの著書において、建築系と土木系の大学の教員と共同で編集・執筆している。「コンクリートは建築、土木とも本質的には同じものだ」という立場に立ち、常に両者の融合を念頭においている。「材料科学概説」、「コンクリート総覧」など、極めて斬新な、創造的著書を多数とりまとめた。

このように、同君は建築材料学と建築実験およびコンクリート工学関係の多数の著書を通して、学生ならびに建設技術者の教育、コンクリート技術の向上に尽力した。また、鉄筋コンクリート構造物の解体工法、解体したコンクリート塊の再利用については、極めて早くから先導的な研究教育活動を行い、我が国はもとより、国際的にも建設技術者育成に多大な貢献をした。同君のこれらの活動は、教育業績として極めて顕著である。

よって、ここに日本建築学会教育賞(教育業績)を贈るものである。